

研究指定校名 : 米子市立伯仙小学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立伯仙小学校
学級数	18学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全児童数：399人（平成29年1月31日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/hakusen-e/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区の研究主題】 箕蚊屋教育コミュニティにおける人権尊重社会の基礎づくり
～互いに関わり合い学び合う子どもの育成を通して～

【本校研究主題】 自尊感情の高い夢のある子どもの育成
～ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくりを基盤にして～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は、平成26年度「ユニバーサルデザインの授業づくりで確かな学力を」をテーマに算数を先導教科として研究に取り組んだ。基礎・基本の力を着実に付け、どの児童も授業が「わかる、できる、楽しい」と感じられるようにするために授業の方法や内容、学級づくりについて研究を深めることができた。その成果として、児童が、意欲をもって学び、友達同士関わり合いながら学習に取り組む姿が見られるようになってきた。しかし、平成26年度の人権意識アンケートの結果から「認識」と「行動意図」のギャップが大きいという課題が明らかになった。分かっている、行動にうつせないという傾向が見られ、実践的な行動につながる意欲や態度をさらに向上させることが必要であった。

本校を含む箕蚊屋中学校区は、平成27年度に校区児童生徒を対象とした「自己・他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト」「人権意識アンケート」を実施した。その結果、本校児童を含む多くの児童生徒が学習に自信がなく、その結果、自尊感情を低下させていることが明らかになった。また、自尊感情の低さが、主体性の欠如や苦手なことからの逃避といった消極的な姿勢や、友だちに対する攻撃的な言動を行うなど良好な人間関係を阻害する態度につながることもわかった。

そこで、中学校区として「箕蚊屋教育コミュニティにおける人権尊重社会の基礎づくり～互いに関わり合い学び合う子どもの育成を通して～」という研究主題を設定し、校区内の小中学校が共通の認識のもと、関わり合いや学び合いを通して自他を尊重する態度を育成し、人権尊重の社会づくりの基盤とするよう人権教育を推進していくこととした。

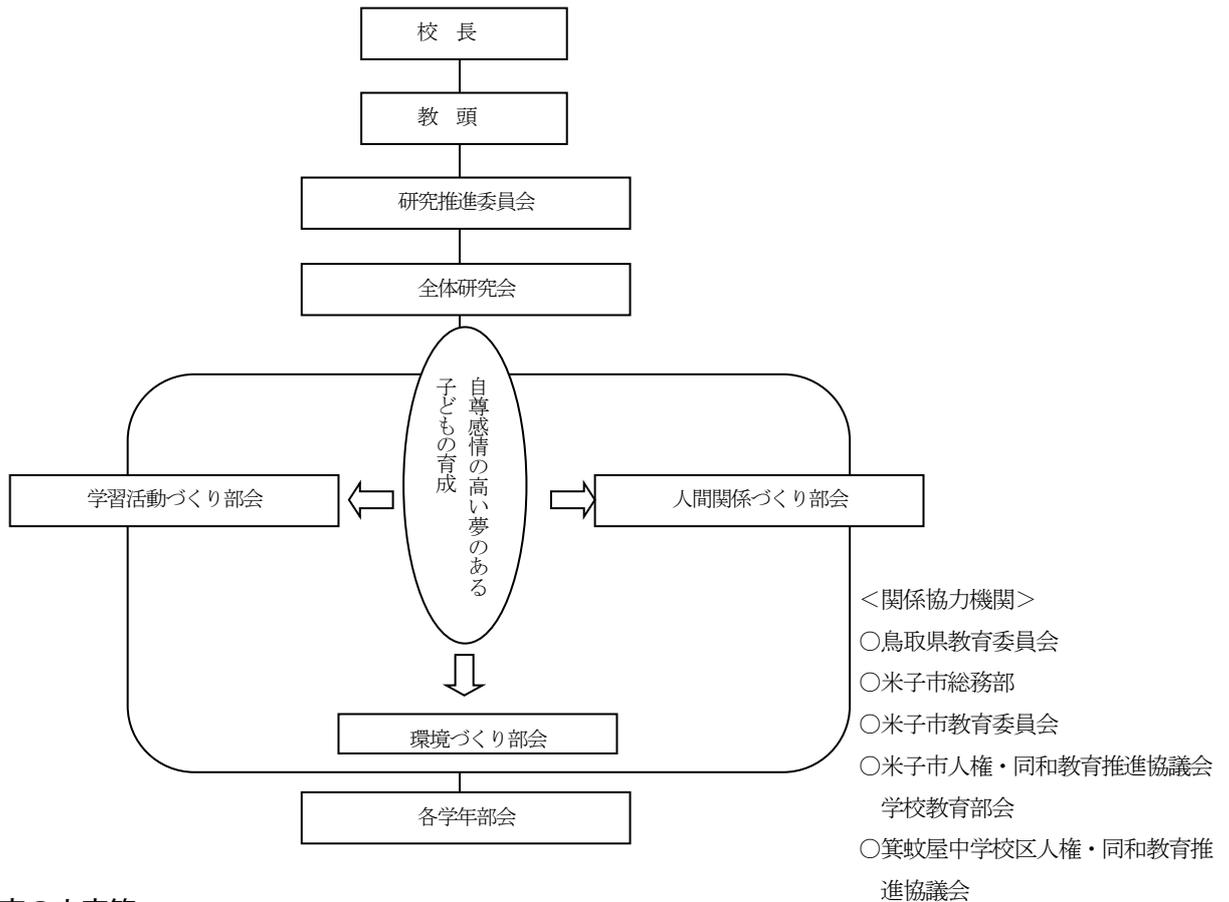
中学校区研究主題のもと、本校は平成28年度の研究主題を「自尊感情の高い夢のある子どもの育成～ユニバーサルデザインの授業づくり・学級づくりを基盤にして～」とし、研究をより一層深めていくこととした。

授業づくりでは、学ぶ楽しさを実感しながら意欲的に取り組み、どの児童もわかる、できることを実感する授業の方法や内容を研究実践することとした。人権が尊重される授業づくりの視点例（〔第三次とりまとめ〕）のもと、一人一人が大切にされ、互いのよさや可能性を發揮できる取組を積み重ねることによって確かな学力の育成につなげようと考えた。

学級づくりでは、ルールや秩序を守り、みんなで役割を担い、よりよい方向を目指そうとする協同的な学級集団を育成することとした。特に、学級活動の充実を図り、児童の自主的、実践的な態度を育てたり、話合いの場を通して全員参加の授業をつくったりして、よりよい人間関係を築いていこうと考えた。

自他のよさを認め合う人間関係をつくるのが学力の向上につながっていくと考えられることから、授業づくり、学級づくりの取組を進めるにあたっては、ユニバーサルデザインの視点のもと、両者の関連も図っていこうと考えた。

3. 調査研究の推進体制



4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容・実施日程

①意識調査・実態調査の実施

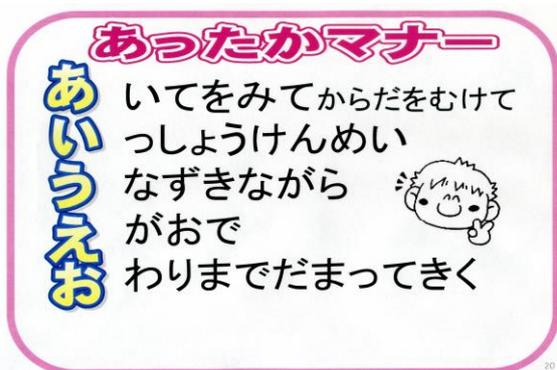
- 校区共通調査（「自己・他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト」）の実施
- 本校調査（児童アンケート、Q-U調査各2回）の実施

②部会ごとの取組

- ユニバーサルデザインの授業づくり（学習活動づくり部会）
 - ・「ユニバーサルデザインの授業づくりチェック表」の活用
 - ・「話す力・聞く力」の作成と活用
 - ・ペア対話・グループ対話の工夫
- ユニバーサルデザインの学級づくり（人間関係づくり部会）
 - ・「あったかマナー」「発言をつなぐ言葉リスト」を活用した話し合い等による誰にとっても居心地の良い学級づくり
 - ・「あったかシャワー」「今日のきらり」の取組などの自尊感情を高める活動の充実

ユニバーサルデザインの授業づくりチェックリスト

環 境	1	教室の前面は、必要最小限の物に限られているか。	
	2	クラスの役割について手順表やマニュアルがあるか。	
授 業 の 指 導 法	3	学習の見通しをもてるように導入できたか。	
	4	45分のゴールの姿を設定して授業に臨んだか。	
	5	ペア学習やグループ活動を取り入れて学習できたか。	
	6	児童の発言がつながるようにしているか。	
	7	「わからない」が大切にされた授業になっているか。	
	8	タイマーで時間の区切りがわかるように工夫しているか。	
	9	言葉だけでなく、視覚的（板書）に提示しているか。	
	10	上手にほめているか。	



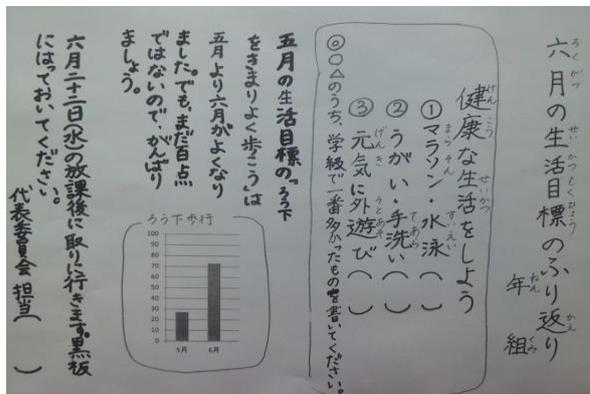
あったかマナー

チクチク言葉	あったか言葉
はあ？	もう一度聞きたいです。
ええ～	私は・ほくは〇〇がいいです。理由は…、
聞こえません。	もっと聞きたいです。
早くして！	もう一度お願いします。
うるさい！	みんなが待ってるよ。
反対です。	静かにしよう。し～っ。
でも、だって…、	心配意見があります。
〇〇でもいいですか。	私の・ほくの意見を聞いてください。
ちがいます。	〇〇に決めてもいいですか。
いいです。	他にもあります。
意味わからん。	他にもあります。
ありえんし。	分かりました。よく分かりました。
	もう一度お願いします。
	そんな考えもあるのか。
	わたしの・ほくの考えは…、

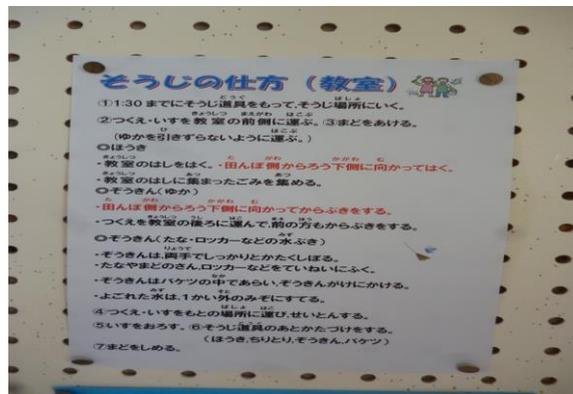
発言をつなぐ言葉リスト

○安心して過ごせる校内環境づくり（環境づくり部会）

- ・「きらきらの木」「人権学習コーナー」による人権を大切にしたい取組の可視化
- ・「よいこのきまり」をもとにした規律の徹底
- ・「そうじの仕方」のマニュアル作成（ユニバーサルデザインの清掃活動）
- ・「米子一のあいさつ」運動の取組
- ・「ノーメディア週間」「すっきりスタートキャンペーン」の取組



「よいこのきまり」



「そうじの仕方」

時期	内容	備考
4月 4日	研究推進委員会（研究の方向、仮説、研究内容の検討）	研究推進委員
4月 5日	校内全体研修（研究の構想・テーマの決定・所属の決定）	全職員
4月 18日	校内全体研修（研究の具体化）	全職員
	部会研（学習活動づくり部会・人間関係づくり部会・環境づくり部会）	全職員
4月 21日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委3人）	参加者8人
5月 2日	校区人権教育研究発表会実行委員会	研究推進委員
5月 12日	校区人権・同和教育推進協議会総会・研修会	全職員
5月 18日	全体授業研究会（2年道徳）指導者 木村 眞澄 教諭 指導助言者 米子市教育委員会 三木 徹 課長補佐	全職員
5月 25日	校区拡大研究部会（校区研究の方向、研究内容の検討）	研究推進委員
5月 26日	部会研（研究の具体化を受けての具体的取組の検討）	全職員
6月 3日	全体授業研究会（5年学活）指導者 渡部 正史 教諭 指導助言者 日吉津村教育委員会 太田 敦弘 課長補佐	全職員
6月 10日	第1回Q-U調査実施（本校調査）	
6月 15日	全体授業研究会（4年総合）指導者 圓山 智也 教諭 指導助言者 鳥取県教育委員会 奥田 和弘 指導主事 山本 裕児 指導主事	全職員
6月 20日	第1回Q-U調査分析	
6月 23～29日	人権アンケート（「自己・他者肯定感テスト」「自尊感情5領域テスト」）実施（校区共通調査）	
6月 29日	校区研究部会（校区共通実践について）	研究主任
6月 30日	部会授業研究会（6年総合）指導者 頼田 敬子 教諭 校区交流のための公開授業として校区教員参加 鳥取県教育委員会 山本 裕児 指導主事来校	部会職員
その他		
6月～9月	部会授業研究会（全学級公開授業）	部会職員
7月 8日	先進校視察（福岡県田川市立金川小学校）	研究主任
7月 13日	第1回児童アンケート実施（本校調査）	

7月22日	校内全体研修（1学期の反省と今後の取組・教科と単元名の決定）	全職員
7月26日	校区研究部会（校区共通実践について）	研究主任
7月27日	校区人権教育部会（人権アンケート分析）	人権教育主任
7月27日	校内全体研修（前田隣保館フィールドワーク）	全職員
8月3日	校区人権・同和教育推進協議会研修会	全職員
8月3日	校区人権教育部会（人権アンケート分析）	人権教育主任
8月10日	校内全体研修（指導案検討・研究紀要の原稿作成）	全職員
8月19日	第1回児童アンケート分析	全職員
8月24日	校区学習活動部会（家庭学習リーフレット検討）	教務主任
8月24日	校内全体研修（人権アンケート分析）	全職員
8月31日	校区研究部会（校区共通実践について）	研究主任
8月31日	校区人権教育研究発表会実行委員会	研究推進委員
9月6日	校区研究部会（校区共通実践について）	研究主任
9月15日	校区学習活動部会（家庭学習リーフレット検討）	教務主任
9月15日	校区人権教育部会（分散会のもち方について検討）	人権教育主任
9月21日	校区拡大研究部会	研究推進委員
10月6日	第2回Q-U調査実施（本校調査）	全職員
10月14日	第2回Q-U調査分析	全職員
10月19日	校内全体研修 （研究発表会に向けての環境づくり・授業づくり）	全職員
10月19日	箕蚊屋中学校区人権問題講演会 演題「子縁でつながる」 講師 神保 真紀子さん	全職員
10月28日	研究発表会分科会ファシリテーター研修会	参加者17人
11月9日	校内全体研修 （研究発表会に向けての環境づくり・授業づくり）	全職員
11月9日	校区拡大研究部会	研究推進委員
11月11日	校区人権教育研究発表会実行委員会	研究推進委員
11月16日	校内全体研修 （研究発表会に向けての環境づくり・授業づくり）	全職員
11月22日	米子市中学校区人権教育研究発表会開催 研究紀要の印刷・配布 総括会議 指導助言者 鳥取県教育委員会 山本 裕児 指導主事 米子市教育委員会 三木 徹 課長補佐	参加者458人 配布数150冊
11月26日 ・27日	全国人権・同和教育研究大会参加（大阪市立木津中学校）	人権教育主任
12月14日	第2回児童アンケート（本校調査）	
1月18日	第2回児童アンケート分析	全職員
1月25日	校内全体研修（研究のふり返り・全人同教研修報告）	全職員
2月1日	研究推進委員会（来年度の研究体制について）	研究推進委員
2月1日	校区人権教育研究発表会実行委員会	研究推進委員
2月3日	小中一貫教育研修（京都教育大学附属小学校）	教頭
2月6日	校内全体研修（来年度の研究体制について方向付け）	全職員
2月24日	全体授業研究会（6年総合「人権フェスタ」） 指導者 頼田 敬子教諭・井田 剛 教諭 招待客 フィールドワーク関係機関 鳥取県教育委員会 山本 裕児 指導主事	全職員

3月 1日	人権教育研究推進事業連絡協議会（県教委10人）	参加者28人
-------	-------------------------	--------

(2) 調査研究の成果と課題

〈成果について〉

①ユニバーサルデザインの授業づくり（「児童アンケート」から）

「ユニバーサルデザインの授業づくりチェック表」の活用により、誰もが授業に参加し、一人一人の力が発揮できる授業づくりを指導者が意識して行ってきた成果として、増減は見られるものの約9割の児童が肯定的な回答を行い高止まりの傾向が見られた。

○「先生の説明は分かりやすいですか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	95.5%	94.5%	-1.0ポイント

②ユニバーサルデザインの学級づくり（「児童アンケート」から）

「あったかマナー」「発言をつなぐ言葉リスト」を活用し、人権を尊重した人間関係づくりを意識し、誰にとっても居心地のよい学級づくりをした結果、1学期と比べて2学期にポイントが上回ったものである。どの項目も高いポイントではあったが、2学期になってさらにポイントが上がったことが取組の成果といえる。休憩時間ひとりぼっちでいることが減った、だれかにたたかれたり、痛いことをされたりすることがなくなってきた、話しかけたら答えてくれる友達が増えたなど、温かい人間関係を築こうとする児童が増えてきた。

○「休憩時間、学級でひとりぼっちでいることがありますか。」の設問に対して全くないと回答した割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	81.7%	86.5%	+4.8ポイント

○「なかよしの友だちがいますか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	97.2%	97.4%	+0.2ポイント

○「友だちから大切にされていると思いますか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	89.0%	92.2%	+3.2ポイント

○「友だちのよいところと言えますか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	93.4%	94.3%	+0.9ポイント

○「学級で、無視をされて悲しい思いをすることがありますか。」の設問に対して全くないと回答した割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	81.2%	86.2%	+5.0ポイント

③安心して過ごせる校内環境づくり（「児童アンケート」から）

スタートスッキリキャンペーン等の取組によって、規則正しい生活を送ろうという意識が育ちつつあると言える。

○「7時まで起きていますか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	88.0%	92.1%	+4.1ポイント

○「午前中にねむたくなることがありますか。」の設問に対して否定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	65.0%	75.1%	+10.1ポイント

④3つの視点（学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくり）からの総括（児童アンケートから）

3つの視点からのアプローチの成果として、友達とかかわりながら学校生活を送ることを楽しいと感じている児童が多くなったといえる。

○「学校は楽しいですか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	89.3%	91.2%	+1.9ポイント

○「学級は楽しいですか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	92.6%	93.0%	+0.4ポイント

〈課題について〉

①ユニバーサルデザインの授業づくり（「児童アンケート」から）

ユニバーサルデザインの授業づくりによる取組で授業がわかりやすいと感じる児童は9割以上いるが、力がついたと実感できるかという点においては、数値が9割を下回っている。特に上学年にその傾向が大きく、下学年では肯定的な回答は9割を超えていることから、学習内容の難易度が上がることで力がついたという実感を得にくくなっているといえる。

○「授業を受けて『わかった』『できた』『力がついた』と感じますか。」の設問に対して肯定的な回答の割合

	1学期	2学期	1学期比
平成28年度全学年	88.9%	87.8%	-1.1ポイント

②3つの視点（学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくり）からの総括

本校の課題である学習に自信がないことによる自尊感情の低さを向上させるために、3つの視点で取り組み、特に人間関係づくりにおいて成果が見られたが、学力の向上という点においては、目に見える形での成果は見られなかった。ユニバーサルデザインの授業づくりを推進しつつ、学力が定着するようになり、基礎基本の定着を図り、人間関係づくりに係る取組の成果を学力の向上につなげながら、今後も引き続き自尊感情の高い夢のある子どもを育成していきたい。